

# 令和5年度 北見医師会看護専門学校 自己評価（令和4年度の運営について）

評価実施期間 R5. 3.27～3.30

## 1. 評価項目について

本校の学校運営の方針と「学校評価を活かした専修学校の質保証・向上に向けて～専修学校における学校評価実践の手引き～」専修学校における学校評価ガイドライン」を基にして、評価の領域を11区分し、各領域ごとに評価項目を設けた。

## 2. 評価の方法について

教職員に対して、各評価項目を5段階で評価し、その評価点の平均値を算出して評価項目の評価点とする。また、各領域の評価点は、領域内の各評価項目の評価点の平均値とする。

5：そう思う、4：ややそう思う、3：どちらでもない、2：あまり思わない、1：思わない

大項目	評価項目	平均点	大項目
I 教育理念・目的・卒業生像	1 学校の理念・目的・卒業生像が教職員・学生・関係者に周知されている。	4.3	4.0
	2 自分は教育理念・教育目標・卒業生像を理解している。	3.6	
II 学校運営	3 組織体制と意思決定システムが適切に機能している 教職員の連携が図られている	3.3	4.3
	4 入学試験委員会は適切に開催されている。	4.8	
	5 学則等諸規程の整備、見直しは適切に行われている。	4.3	
	6 教育活動等に関する情報公開は適切に行われている。	4.6	
III 教育活動	7 教育理念、教育目的に沿った教育課程の編成がされている。	4.2	4.0
	8 自分は教育課程を理解している。	3.8	
	9 教育課程を学生に周知している。	4.1	
	10 教職員は本校の倫理規定を理解し遵守している	4.3	
	11 学生の授業評価が行われている。	4.3	
	12 看護師資格試験に関する指導計画が立案されている。	3.7	
	13 成績評価・単位認定、卒業判定会議により適切に成績を認定している。	4.1	
	14 教育目的・目標に沿った授業ができる要件を備えた教員を確保している	4.0	
15 自分は指導力育成など資質向上のための研修等の参加や研究に取り組んでいる。	3.5		
IV 学生指導等	16 学生学習困難者への支援体制が整備されている	3.9	4.1
	17 退学率の低減が図られている。休学・復学者に対する対応が適切にされている	3.7	
	18 学則・諸規程を遵守し、また学生へ周知している	4.1	
V 学修成果	19 進学・就職に係る支援体制がある	4.5	4.0
	20 看護師資格試験の合格率等から課題、問題点を把握し、その対策が行われている。	3.8	
VI 学生支援	21 卒業生の社会的な活躍及び評価を把握している。	4.1	4.4
	22 奨学金制度等、経済的支援について周知している	4.5	
VII 教育環境	23 健康診断が定期的に行われている。	4.0	4.0
	24 学生が心身について相談できる状態が作られている。	4.3	
	25 保護者説明会の開催 学生・保護者が相談できる体制である	4.5	
	26 学生の傷害・賠償・感染事故等の補償制度を周知している	4.7	
VIII 学生募集	27 校舎の管理（環境整備、巡回、施錠、点検など）が、適切に行われている。	3.3	4.6
	28 看護教育に必要な教材・教具が整備されている。	4.2	
	29 教育に必要なネット環境が整備されている。	4.1	
	30 図書室は学生に使用しやすい環境に整備されている。	4.1	
	31 実習施設との連携・協力体制が整っている	4.4	
	32 チューター制度により、学生間の連携・連帯意識等の育成が配慮されている。	3.8	
	33 衛生面（手洗い・含嗽など）・感染防止対策が適切に行われている。	4.2	
	34 定期的な防災訓練が行われている。	4.0	
IX 財務	35 高等学校等に定期的に学校説明会を実施している	4.7	3.5
	36 オープンキャンパスの開催時期や募集は適切である。	4.4	
	37 H P に学校行事・資格取得・就職状況等の情報を適時載せている。	4.8	
X 法令等の遵守	38 教職員が予算、決算等の財務状況を把握できるようにしている。	3.4	4.4
	39 予算・収支計画に参画している	3.5	
XI 社会貢献・地域貢献	40 法令、専修学校設置基準等が守られている。	4.5	4.5
	41 個人情報に関し、その保護のための対策がとられている。	4.3	
XII 社会貢献・地域貢献	42 自己評価の実施と問題点の改善を行っている。	4.3	4.5
	43 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている。	4.2	
	44 学生が定期的に学校周りのボランティア清掃を行っている。	4.7	

## 3. 実施結果及び課題

(1) 令和4年度の自己評価の全体平均は4.2（前年度-0.1）であった。前年度に比べ全体的に評価は低下した。要因として評価者の学校運営の理解度が影響する。

① 評価者の学校経験年数5年未満が4割を占めており、1年未満が2名である。入職時のオリエンテーションで教育理念・目的、学校運営について説明しているが、理解が深まるよう機会を設ける。

自己評価の内容が「資料から読み取れない」との意見から評価項目は妥当か、評価項目に対して適切な資料が等、検討が必要である。そのための委員会を定期的に開催していく

② 評価項目 II-3組織体制と意思決定システムが適切に機能している。教職員間の連携が図られている評価点3.3（前年4.1）複数人から意思疎通が不足、業務の共通理解と連携不足との意見があった。案件によっては五者会議→学校運営会議→教務・業務会議→実施と、トップダウンで進めることがあった。また経験年数が長い教員と、浅い教員との執務するスペースが分かれていた。何をしているのか双方見えづらく、相談しにくい環境になっていた。

③ 評価項目 IV-13学習困難者への支援体制3.9（前年4.7） IV-17退学率の低減3.7（前年4.7） V-20看護師国家試験の合格率から課題・問題点を把握・対策3.8（前年4.1）入試結果や科目試験成績、再試験者数のデータ等から年ごとに学力低下傾向である。基礎学力が不足で学習についていけず退学・留年につながっている。学習が妨げられる疾病や精神面の問題を抱えている学生もいる。

### (2) 重点課題

① 教職員の連携強化：教室内教員間の物理的環境の整備～各教員の動きが見えて気付ける、声をかけやすい、相談しやすい環境に調整・整備 業務においては教職員個々が納得し合意の上で協力し進めていく

② 学生指導：学生個々の背景と学習習慣を把握する。看護関連学習と基礎学力（読解力・数学力）を並行して指導し学力アップに繋げる。1・2年次から、早い段階から始め国家試験に繋げられるようにする。